

[自動車技術会創立15周年記念] 昭和37年春季大会

昭和22年2月自動車技術会が創立されて以来、本年は15周年にあたるので、春季大会と並行して盛大に挙行された。準備万端の会場には、早朝より熱心な会員諸君が多数出席、第1日の幕が下ろされた。

②

[第1日] 5月16日(水) 会場: 東条ホール

» 第16回通常総会 10:00~11:00

豊田会長議長となり、次の議題を審議承認した。

- (1) 昭和36年度事業報告の件(吉城常任理事)
- (2) 昭和36年度決算報告の件(鍋谷担当理事)
- (3) " 監査報告(中川監事)
- (4) 昭和37年度予算の件(鍋谷担当理事)
- (5) 新役員選挙結果確認の件(吉城常任理事)

本人出席56名 委任状提出1,286名

以上、定款第18条により総会は成立。



第1図 記念式典が行なわれた東条ホール

» 第12回自動車技術会賞授賞式 11:00~12:00

(1) 審査経過報告(田中審査委員長)

学術賞・技術賞あわせて6社から授賞候補者の推せんがあつたが結局次の三君が授与した。

(2) 授賞

► 学術賞 坂下和史君 (東洋工業株式会社)
岡田 正君

自動車のシミーについての研究

► 技術賞 須田 寿君 (東京発動機株式会社)

小形二輪車用高速2サイクルガソリン機関の性能向上

——授賞者諸君の略歴——

坂下和史君 大正14年3月29日生れ、37歳。

昭和25年3月 広島文理大学理学部物理学科卒業

25年4月 東洋工業株式会社へ入社。

現在同社実験研究部第2研究課長

昭和36年12月 工学博士授位(京都大学)

岡田 正君 昭和9年1月21日生れ、28歳。

昭和32年3月 広島大学理学部物理学科卒業

32年4月 東洋工業株式会社へ入社。

現在同社実験研究部第2研究課員

須田 寿君 大正10年3月31日生れ、41歳。

昭和19年9月 東京帝國大学第2工学部航空原動機学科卒業

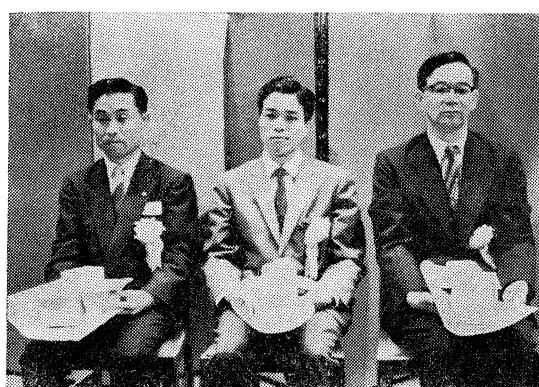
20年2月 海軍技術中尉航空技術省勤務。

20年12月 東京発動機株式会社へ入社。

現在同社技術研究所次長



第2図 自動車技術会
賞審査経過を発表する
田中審査委員長



第3図 第12回自動車技術会賞授賞者(左から坂下、岡田、須田君)

» 創立15周年記念式 13:00~14:00

- (1) 会長あいさつ(豊田会長)
- (2) 15周年の報告(吉城常任理事)
- (3) 来賓祝辞(通商産業大臣・運輸大臣・文部大臣・自動車工業会長・日本機械学会長)
- (4) 功労者表彰

日本の自動車技術の向上に寄与された功労者36氏を招待し表彰した。

» 15周年記念会員家族慰安会 14:40~17:40

2本の35mmカラー映画を上映、会員家族で場内は

自動車技術会創立 15 周年記念

祝　辞

本日ここに社団法人自動車技術会創立 15 周年記念式が挙行されるとあります。この祝辞を申し述べる機会を得ましたことは私の深く喜びとするところです。

貴会は、戦後の荒廃期にいち早く自動車産業の日本経済における重要性を認識された同好の方々によって創立されたものであります。

が、それ以来 15 年にわたり自動車に関する技術研究を続けられ、

わが国自動車工業の発展に大きく貢献されたことは周知の通り

であり、御向慶にいたえません。

その活動は政府の施策に積極的に協力され自動車技術に関する諸研究を行なうとともに、工業標準の設定、部品の単純化および团体規格の作成等多方面にわたり目覚ましいものがあります。

わが国自動車工業の今年の躍進と発展をみるにあたりあらためて貴会の御活躍に深く敬意を表す次第であります。

しかししながら、自動車の生産技術はますます進歩発達を続けてるものであり、先進欧米諸国はその強大な生産力、資本力を背景として、日夜技術の向上に専心しております。

とくに国際商品である乗用車については、貿易の自由化も間近かにひかえ、わが国自動車および関連産業界の盛況をあげてその技術の向上につなげなければならないことを痛感いたします。

このような時期にあたり業界はもとより学界の権威者を網羅する自動車技術会はまさに意義深いものであります。

このように時代はますます技術の進歩と自動車工業の飛躍発展

をめざす御努力を継続されるようお願い申し上げますとともに、ますます御發展されることを祈つやみません。

簡単であります、一言所感を述べて祝辞といたします。

昭和 37 年 5 月 16 日

通商産業大臣 佐藤栄作

祝　辞

本日ここに社団法人自動車技術会の創立 15 周年記念式にあたり一言祝辞を申述べる機会を得ましたことは私の深い喜びとすることろであります。

顧みますれば昭和 22 年に貴会が創立されたところのわが国はまだ戦後の窮屈と混乱の渦中にあかれていたのです。

貴会はかかる情勢の中に工場再建の希望に燃えて立ち上ったわが自動車工業界の総意に基づき自動車科学技術の健全な発達を促進する目的のもとに結成されたのであります。そして、その発展は各方面から多大の期待をもつて迎えられたのであります。

それ以来会員各位の努力によつて会の事業は順調に発展し從来とかく科学技術復興の上の卓見とされていた事業と研究と関連業界とのつながり等についてもこれが解説に向つて蓄積と成果を収めるなど各種の事業をとおして科学技術の進歩と自動車工業の飛躍発展のために大きな貢献をなしてあります。

今や國力の回復に伴い業界の各分野にわたつてめざましい革新が行われつつありますときまたまた自動車技術会は創立 15 年を記念して基礎的といよと堅く国際的にも強くその真質を發揮せらる貿易の自由化による国際化に貢献しておられます。

本日の式典にあたりお祝の言葉を申述べますと共に自動車工業が貴会に寄せる目的のために益々努力を尽されんことを衷心よりお願いします。

昭和 37 年 5 月 16 日

自動車工業会

会長代理 川又克二

祝　詞

本日ここに社団法人自動車技術会創立 15 周年記念式を挙げられるに当り日本機械学会を代表して御祝詞を申し上げます。

貴会は創立以来自動車に関する技術研究調査、各種規格の作成、技術的指導等に専念せられ、国産自動車性能の飛躍的向上に多大の貢献をされました。

由來わが日本機械学会の対象をいたしました機械工業は電気、化学等各種工学および機械の広い範囲に関係する大手かつ複雑な技術であります。最近技術革新などにもなり近代機械工業の多様性はますます総合性の必要を増しておられます。

従いまして今後の機械工業、工業のより一層の発展のためにもぜひともとしまして専門の工学工業部門との協力の実現が必要であります。

日本機械学会は特に貴会ともども相たずさえてたがいに新知識技術交流を実行し、わが国および世界文化の飛躍的発展に寄与したいと考へています。

絶りに貴会の今後ともより一層の協力をいただきますようお願い申し上げますとともにさらに一層のご活躍とご発展あるんことを切望して私の祝詞といたします。

昭和 37 年 5 月 16 日

社団法人 日本機械学会

会長 大井上 博

表 彰 状

殿

貴殿はわが国自動車工業の黎明期においてあらゆる困難を克服し、その豊富な駕駆と経験とをもつて常に自動車工業の技術向上に努力せられ今日の目覚ましい躍進の基礎を確立されましたことは誠に感激に至ります。

貴殿の樹立された偉業はわが国自動車工業の技術史上に不滅の光を与えるものと深く信ずるものであります。

本日自動車技術会の創立 15 周年記念式を挙行するにあたり貴殿の著しき御功績に対し深甚なる感謝の辞を申述べて表彰いたしました。

昭和 37 年 5 月 16 日

社団法人 自動車技術会 会長 豊田英二

祝　辞

本日ここに社団法人自動車技術会創立 15 周年記念式を迎えるにあたり、祝辞を申し述べる機会を得ましたことは、私の深く喜びとするところであります。

かえりみますように、終戦直後の混亂状態の中においてわが国再建の足掛かりとなるべき自動車の進歩発達を図るために各会員が自動車技術会を開設されましたことは、まさに先見の明があり、その後の目覚ましい御活躍ぶりとともに、深く敬意を表する次第であります。

さらにわが国のように自動車の生産及び使用上必要な物資の大半を輸入に仰いでおりますが、その不利な条件を克服し、今まで向上されましたことは、自動車技術会並びに関係者各位の御努力によるものであると存じます。

現在、わが国の陸上輸送力の増強は、国家としても重要な課題の一つであります。自動車の発達によるところがきわめて大きいです。

自動車その他の道路の建設及び整備が逐次実施されつつあります。

これに伴い、自動車そのものにつきましても安全、かつ、経済的な高速交通に適したものが一日も早く使用者へ提供されることが必要であります。

さらには一方、自動車の普及に伴い、その健全な使用が行なわれるよう一般使用者に対する貴会の積極的な啓蒙指導が必要であると思われます。

最近の国内需要の増大に応えるとともに近く予想される貿易自由化に対処してわが国自動車産業をより一層発展させて貰いたいと思います。

自動車技術会の活動をより一層発展させて貰いたいと思います。この分野における科学技術の発達が近時のわが国産業経済の発展の一一大推進力となり豊かな明るい社会の建設と国民生活の向上のために果たされた役割はきわめて大きなものがあります。

特に本会が自動車技術会賞および技術講演会の開催等の事業を活発に行なつて学术振興に寄与されました業績は高く評価されるべきであり関係者各位のご努力と各方面的ご協力によりまして

会の事業はきわめて順調に進展し、わが国自動車科学技術の飛躍的発展に多大の寄与をされたのであります。

この分野における科学技術の発展に伴い科学技術研究、科学技術教育の振興の重要性がますます増大し次第にあります。

昭和 37 年 5 月 16 日

運輸大臣 斎藤 昇

創立十五周年記念式の祝辞

祝　辞

自動車技術会が創立 15 周年を迎えたこの記念式にあわせて各種の記念行事が行なわれますことにご慶賀申し上げます。

昭和 22 年戦後の荒廃と混乱のなかからこの会は早くも祖国再建の力強い希望に燃えて立ち上がり自動車科学技術の健全な発達と技術関係者相互の親睦を図る目的をもつて輝かしく発足されたのであります。

その後会員各位のご努力と各方面のご協力によりまして

会の事業はきわめて順調に進展し、わが国自動車科学技術の飛躍的発展に多大の寄与をされたのであります。

この分野における科学技術の発展に伴い科学技術研究、科学技術教育の振興の重要性がますます増大し次第にあります。

昭和 37 年 5 月 16 日

文部大臣 荒木満寿夫

賞　状

1. 小形二輪車用高速二サイクルガソリン機関の性能向上

東京発動機株式会社

須田 寿君

右は小形二輪車用高速二サイクルガソリン機関の掲載について多年おわり理論的な観点から実験的な研究を行ない、特にシミュレーション方式については相当まとまつた研究を行なつてゐる。この研究は同社の製品の性能向上に貢献し、ときに最近の製品ランプ・スポーツ二輪車では 50 cc のエンジンに対して優秀な成績を示している。

本会は審査の結果その自動車技術向上に寄与する功績著者なるを認め第 12 回自動車技術会賞を授与する。

昭和 37 年 5 月 16 日

自動車技術会賞審査委員会委員長 田中敬吉

社団法人 自動車技術会 会長 豊田英二

第十二回自動車技術会賞

賞　状

1. 自動車のシーミーについての研究

東洋工業株式会社

坂下 和史君

岡田 正君

右は自動車のシーミーに影響する複雑多岐にわたる諸要素の緻密なる解析により問題を手ぎわよく整理し、その結果にさらに実用上の検討を加えて、シーミー発生を防止する手段についてきわめて有効な理論的裏付けを与え、わが国自動車工業に関する学術の向上に大きな寄与をなした。

本会は審査の結果その自動車工学向上に寄与する功績著者なるを認め第 12 回自動車技術会賞を授与する。

昭和 37 年 5 月 16 日

自動車技術会賞審査委員会委員長 田中敬吉

社団法人 自動車技術会 会長 豊田英二

自動車技術会事務局員の表彰

Vol. 16, No. 8, 1962.

453